

検討案	ねらい(効果)	備考	
<p>①細砂通過放流のみ期間延長 細砂通過放流に限り、現行の排砂期間(6月-8月)に加え、9月に基準に達した場合も実施する。</p>	<p>・排砂時の環境負荷を分散</p>	<p>出し平ダムでは、アクセスがトロッコのみであるため、排砂設備のメンテナンス期間を考慮すると5月への前倒しが困難であることや、実際の出水の出現頻度を鑑みると9月の1ヶ月間延長が現実的であると判断。</p>	
<p>②事前、事後放流 排砂期間前(5月末)や後(9月上旬)に、日を決めて、河川流量によらず水位低下を伴わない排砂ゲート放流を実施する。</p>	<p>(同 上)</p>	<p>河川流量が少ない場合、放流時の濁りが多くなる可能性がある。</p>	
<p>③出し平ダム・宇奈月ダムのシリーズ排砂 現状では、出し平ダムと宇奈月ダムがほぼ同時に自然流下を開始、終了しているが、宇奈月ダムの排砂操作のタイミングを見直すことで、宇奈月ダム下流への移動土砂量を分散させる 【注】 出し平ダムは、排砂・通砂ともに従来どおり</p>	<p>(1)現行の排砂期間(6月-8月)で 宇奈月ダムの排砂操作を出し平ダムの排砂操作の前または後に行う。 【注】 出洪水の発生頻度によって、宇奈月ダム下流への移動土砂量を分散させることが困難となる場合が考えられるが、他の方策との組み合わせにより有効となる可能性がある。</p>	<p>・排砂時の環境負荷を分散 ・下流河道への土砂堆積を低減</p>	<p>流況に応じた運用判断を実施することとなるため、これまでの実績流況を用いたシミュレーションによる予測や有識者のご意見も踏まえた慎重な事前検証が必要。</p>
<p>(2)現行の排砂期間(6月-8月)で 宇奈月ダムの自然流下時間・タイミングを調整する。 【注】 出洪水の継続時間によって宇奈月ダム下流への移動土砂量を分散させることが困難となる場合が考えられるが、他の方策との組み合わせにより有効となる可能性がある。</p>	<p>(同 上)</p>		
<p>(3)上記(1)~(2)において 宇奈月ダムの実施基準流量を現在よりも引き下げて実施する事により、宇奈月ダム下流への移動土砂量を分散させる。</p>	<p>(同 上)</p>		
<p>(4)上記(1)~(2)において 宇奈月ダムの排砂期間を延長する事により宇奈月ダム下流への移動土砂量を分散させる。</p>	<p>(同 上)</p>		
<p>(5)宇奈月ダムに補助方策(吸引管工法)を適用 宇奈月ダム貯水池に堆積した土砂を吸引管工法により宇奈月ダム下流河道へ移動させ、その後の出洪水時に流下させる補助的方策</p>	<p>(同 上)</p>		